

## 第2章 史跡の概要

表 2-1 主な調査の概要・史跡指定の概要 (1/2)

調査期間または 史跡指定年月	調査 回数	調査 面積	目的	検出した主な遺構	
			史跡指定の内容		
1959(昭和 34). 4. 13 - 5. 31	奈文研	220 m <sup>2</sup>	遺跡確認の予備調査	内郭北区画 SA5901	
1960(昭和 35). 11. 22 - 1961(昭和 36). 6. 8	樞考研 1	1,060 m <sup>2</sup>	奈良国立文化財の調査成果を受けた範囲確認の緊急調査。北一本柱列 SA5901 の周辺を中心として宮殿遺跡そのものがどのように展開しているかをあきらかにすることを目的とする。計画されている吉野川分水の計画路線を宮殿遺跡からいかに外すかということとで計画・実施された。	方形に石組溝をめぐらした施設 SE6001、井戸南方建物 SB6010 の西半	
1961(昭和 36). 12. 1 - 1962(昭和 37). 4. 16	樞考研 2	926 m <sup>2</sup>		井戸南方建物 SB6010、内郭東区画 SA6101	
1962(昭和 37). 12. 22 - 1963(昭和 38). 3. 30	樞考研 3	971 m <sup>2</sup>		長廊状建物 SB6205、下層遺構 (II 期) SA6202. 6203. 6212	
	樞考研 4	1,211 m <sup>2</sup>		SE6001 が井戸であることを確認、内郭北東隅	
1964(昭和 39). 11. 29 - 1966(昭和 41). 3. 31	樞考研 5	312 m <sup>2</sup>		井戸西方建物 SB6405 の東半、内郭北区画 SA5901	
1964(昭和 39). 11. 29 - 1966(昭和 41). 3. 31	樞考研 6	180 m <sup>2</sup>		内郭南区画東区 SA6101、下層の石組溝	
1965(昭和 40). 11. 27 - 1966(昭和 41). 3. 30	樞考研 7	580 m <sup>2</sup>		井戸西方建物 SB6405、内郭北区画 SA5901	
1966(昭和 41). 7. 24 - 9. 15	樞考研 9	1,060 m <sup>2</sup>		内郭北東の外郭の調査、電電公社新築に伴う調査	南北石組溝 SD6531. 6532. 6533
1966(昭和 41). 12. 23 - 1967(昭和 42). 3. 26	樞考研 10			内郭北隣接地の調査、I 期遺構の確認、範囲確認調査	南北石組溝 SD5905、東西石組溝 SD6605、木簡出土
1972(昭和 47)	史跡指定 名称「伝飛鳥板蓋宮跡」 323 番、325 番、326 番、327 番、328 番、329 番				
1975(昭和 50). 1. 16 -	樞考研 47	760 m <sup>2</sup>	範囲確認調査	外郭東区画施設 SA7405、II 期遺構東区画施設 SA7406. 7409	
1976(昭和 51). 1. 20 - 4. 2	樞考研 51	230 m <sup>2</sup>	範囲確認調査	外郭東区画施設 SA7405 の東雨落溝 SD7410、その下層から「大花下」「白髪部五十戸」など大量の木簡出土	
1976(昭和 51). 10. 5 - 12. 2	樞考研 57	290 m <sup>2</sup>	内郭南方の調査、郵便局新築に伴う調査	東西石組溝 SD7615、砂利敷	
1977(昭和 52). 3. 19 - 12. 10	樞考研 61	1,390 m <sup>2</sup>	駐車場造成に伴う調査	エビノコ郭正殿 SB7701	
1979(昭和 54). 3. 7 - 8. 23	樞考研 71	400 m <sup>2</sup>	内郭北区画と南区画の境の調査、範囲確認調査	東西区画堀 SA7904、SB7905、内郭南区画東区の建物 SB7401、内郭東区画堀 SA6101、II 期遺構	
1979(昭和 54). 8. 23 - 1 980(昭和 55). 3. 18	樞考研 73	836 m <sup>2</sup>	病院建設に伴う調査	内郭前殿 SB7910	
1980(昭和 55). 4. 16 - 4. 17	樞考研 74	22 m <sup>2</sup>	住宅新築に伴う調査	エビノコ郭西門 SB7402	
1980(昭和 55). 5. 8 - 9. 19	樞考研 75	350 m <sup>2</sup>	内郭北区画と南区画の境の調査、範囲確認調査	区画堀 SA7904、II 期遺構	
1980(昭和 55). 9. 19 - 1 981(昭和 56). 3. 31	樞考研 78	426 m <sup>2</sup>	病院建設に伴う調査	内郭南門 SB8010、内郭南区画堀 SA8020	

表 2-1 主な調査の概要・史跡指定の概要 (2/2)

調査期間または 史跡指定年月	調査 回数	調査 面積	目的	検出した主な遺構
			史跡指定の内容	
1985(昭和 60). 3. 22－ 3. 30	樞考研 104	16 m <sup>2</sup>	工場改築に伴う調査	外郭東区画堀 SA7405 の 東雨落溝 SD7410、その 外側の土坑状遺構から 「大津皇」など大量の 木簡が出土
1983(昭和 58). 1. 12	追加指定 37 番、38 番、51 番、52 番の 5			
1983(昭和 58). 5. 19	追加指定 35 番の 3			
1989(平成元). 6. 2－9. 16	樞考研 116	670 m <sup>2</sup>	都市計画公園整備に伴う調査	エビノコ郭南辺区画堀 SA8935、下層石組溝 SD8931
1990(平成 2). 9. 4－11. 27	樞考研 120	280 m <sup>2</sup>	都市公園整備に伴う調査	エビノコ郭南辺区画堀 SA8935、下層石組溝 SD8931、II 期遺構 SB9008
1992(平成 4 年). 4. 21	追加指定			
1996(平成 8). 1. 24－2. 26	樞考研 133	80 m <sup>2</sup>	エビノコ郭西南隅の調査、住 居改築に伴う調査	南区画堀 SA8935
1997(平成 9). 7. 22－1 0. 3	樞考研 136	98. 3 m <sup>2</sup>	住居改築に伴う調査	エビノコ郭北辺区画堀 SA9701
1999(平成 11). 1. 18－ 8. 10	樞考研 140	1, 000 m <sup>2</sup>	飛鳥京跡苑池遺構 1 次調査、 範囲確認調査	苑池 SX9808、出水の酒 船石
2000(平成 12). 11. 27－ 2001(平成 13). 4. 4	樞考研 143	900 m <sup>2</sup>	飛鳥京跡苑池遺構 2 次調査、 範囲確認調査	渡堤 SX0002、石組水路 SD0013、木簡出土
2001(平成 13). 5. 7－8. 1	樞考研 145	500 m <sup>2</sup>	飛鳥京跡苑池遺構 3 次調査、 範囲確認調査	渡堤 SX0002、中島 SX9805、木簡出土
2001(平成 13). 11. 19－ 2002(平成 14). 2. 27	樞考研 147	430 m <sup>2</sup>	飛鳥京跡苑池遺構 4 次調査、 範囲確認調査	石組水路 SD0013
2003(平成 15). 11. 12－ 2004(平成 16). 3. 31	樞考研 151	600 m <sup>2</sup>	飛鳥正宮の学術調査事業、内 郭北区中央での調査	大型建物 SB0301、石敷 SH0302
2004(平成 16). 11. 8－2 005(平成 17). 3. 31	樞考研 153	900 m <sup>2</sup>	飛鳥正宮の学術調査事業、内 郭北区中央での調査	SB0301 (南の正殿)
2005(平成 17). 11. 15－ 2006(平成 18). 3. 21	樞考研 155	700 m <sup>2</sup>	飛鳥正宮の学術調査事業、内 郭北区中央での調査	SB0301 (北の正殿)、I 期・II 期遺構も検出
2006(平成 18). 12. 4－2 007(平成 19). 3	樞考研 157	250 m <sup>2</sup>	飛鳥宮北辺の調査	東西石組溝 SD0605
2009(平成 21). 11. 24－ 2010(平成 22). 3. 31	樞考研 164	300 m <sup>2</sup>	「世界遺産登録推進事業」に 伴う外郭北部域の調査	飛鳥寺南の石敷広場、 東西石組溝 SD0901
2009(平成 21). 11. 9－2 010(平成 22). 2. 15	樞考研 165	1, 270 m <sup>2</sup>	吉野川分水改修工事に伴う調 査	掘立柱建物、石組溝
2016(平成 28). 3. 1	追加指定 34 番 3、34 番 4、43 番 2、44 番 2、48 番、50 番、53 番 3、250 番 1、251 番 1、 252 番、253 番、254 番、255 番、256 番 1、257 番 1、258 番、259 番、260 番、 262 番 3、264 番 1、314 番 1、315 番、322 番、324 番、330 番 1、330 番 2、331 番、332 番、333 番 1、333 番 3、333 番 4、346 番、347 番 1、347 番 2、347 番 3、 347 番 4、349 番、350 番			
2016(平成 28). 10. 3	追加指定 名称変更「飛鳥宮跡」 53 番 1、261 番 1、334 番			
2016(平成 28). 10. 11－ 20	樞考研 179	18. 6 m <sup>2</sup>	住宅新築に伴う調査	礎敷
2019(令和元). 10. 16	追加指定 55 番 2、313 番 2			

## 第2章 史跡の概要

### 【発掘調査報告・概報】

1961年 奈良国立文化財研究所『平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告書』奈良国立文化財研究所学報第10冊

1971年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡—昭和45年度発掘調査概報—』

1971年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第26冊

1972年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡—昭和46年度発掘調査概報—』

1973年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡—昭和47年度発掘調査概報—』

1974年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡—昭和48年度発掘調査概報—』

1975年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡—昭和49年度発掘調査概報—』

1976年 奈良県教育委員会「飛鳥京跡—昭和50年度発掘調査概報—」『奈良県遺跡調査概報1975年度』

1977年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡昭和51年度発掘調査概報 付載 飛鳥京跡第51次発掘調査出土木簡概報」『奈良県遺跡調査概報1976年度』

1978年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡昭和52年度発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報1977年度』

1980年 奈良県教育委員会『飛鳥京跡(二)』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第40冊

1983年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡—第81次～83次調査概報—」『奈良県遺跡調査概報1981年度』

1990年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡発掘調査概報第111次～113次および平田キタガワ遺跡の調査」『奈良県遺跡調査概報1987年度』

1990年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡—第115次調査—」『奈良県遺跡調査概報1989年度』

1991年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡—第116次～119次他—」『奈良県遺跡調査概報1990年度』

1996年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡—第131次～134次、第131次出土木簡調査概報—」『奈良県遺跡調査概報1995年度』

1998年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡—第136次～139次、豊浦寺第3次発掘調査概報—」『奈良県遺跡調査概報1995年度』

2007年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡第155次・156次」『奈良県遺跡調査概報2006年』

2008年 奈良県立橿原考古学研究所『飛鳥京跡Ⅲ』奈良県立橿原考古学研究所調査報告第102冊

2009年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡第158次・159次調査」『奈良県遺跡調査概報2008年』

2010年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡第164次調査」『奈良県遺跡調査概報2009年度』

2011年 奈良県立橿原考古学研究所『飛鳥京跡Ⅳ』奈良県立橿原考古学研究所調査報告第108冊

2012年 奈良県立橿原考古学研究所『史跡・名勝 飛鳥京跡苑池(1)』奈良県立橿原考古学研究所調査報告第111冊

2014年 奈良県立橿原考古学研究所『飛鳥京跡Ⅵ』奈良県立橿原考古学研究所調査報告第117冊

2017年 奈良県立橿原考古学研究所「飛鳥京跡第179次調査」『奈良県遺跡調査概報2016年度』

**【木簡報告】**

2019年 奈良県立橿原考古学研究所『飛鳥宮跡出土木簡』吉川弘文館

**【博物館図録】**

2008年 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『秋季特別展 宮都 飛鳥』

2014年 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『飛鳥宮と難波宮・大津宮』

## 第2章 史跡の概要

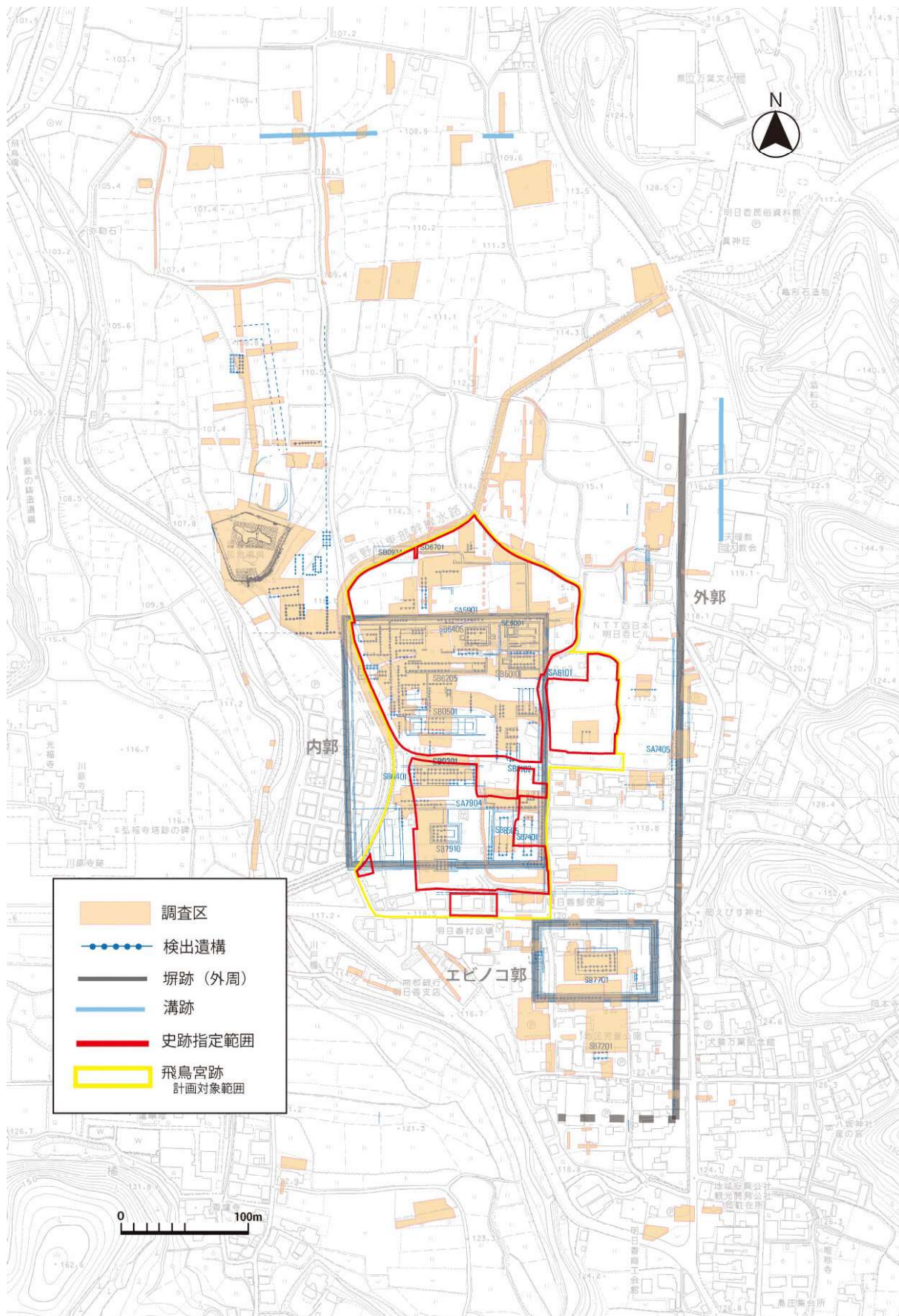


図 2-5 発掘調査箇所と検出遺構



### (5) 指定地の状況

#### ① 土地所有及び土地利用の状況

昭和47年の「伝飛鳥板蓋宮」の指定に伴い、内郭東北部の大井戸一帯が公有化され、遺構表示等がおこなわれ、整備された。指定範囲の面積は、4,804.91 m<sup>2</sup>である。昭和58年の追加指定地 3,545.00 m<sup>2</sup>はすべて民有地であったが、その後、同意の得られた部分の公有化（県有地化）がすすめられた。

平成28年には、内郭の大部分と、その東側・北側が追加指定され、10月までの間に、35,927.28 m<sup>2</sup>が指定範囲となったが、民有地ばかりでなく、古都保存法に基づいてすでに公有化され、県有地となっていた部分を含んでいた。民有地については、同意の得られた場所から県有地となっている。民有地の地目は、水田と宅地が中心である。古都保存法のもと公有化された土地は、水田としての土地利用が続けられている場合がある。内郭の中央部や南側については、水田としての利用は続けられていない。また、内郭の東南部で公有化された部分については、遺構表示等がおこなわれ、整備されている。

#### ② 公有化の経緯と現況

史跡公有化事業を活用した史跡地内の公有化は、昭和47年より現在にいたるまで、奈良県教育委員会文化財保存課が所管して事業を進めている。史跡公有化事業とは、文化財を良好な状態での保全を図るため、史跡地内の土地の買い入れをおこなうものである。史跡公有化事業によって公有化（県有地）された面積は、令和4年3月時点で24,679.58 m<sup>2</sup>（史跡地の約67.5%）となっている。

古都保存事業による公有化は、歴史的風土の適切な保存を図るため、歴史的風土特別保存地区内の土地の買い入れをおこなうものである。昭和51年から平成25年までの間にこの事業によって公有化（県有地）されていた5,644.00 m<sup>2</sup>（史跡地の約15.4%）が、平成28年の追加指定に伴い、史跡指定された。古都保存事業は、奈良県風致保全課が所管していたが、現在の所管は、奈良県景観・環境局景観・自然環境課である。

令和4年3月現在、史跡指定地は36,537.28 m<sup>2</sup>であり、公有地（県有地）は28,423.00 m<sup>2</sup>で、公有化率は83.0%である（表2-2、図2-6）。

表 2-2 飛鳥宮跡の公有化の経緯

	県有地		民有地 (㎡)	計 (㎡)	公有化率 (%)
	史跡公有化事業 (㎡)	古都保存事業 (㎡)			
S47.4	4,804.91		0.00	4,804.91	100.0
S58.1	4,804.91		3,545.00	8,349.91	57.5
S58.3	5,560.91		2,789.00	8,349.91	62.9
S58.5	5,560.91		3,285.00	8,845.91	62.9
S59.3	6,056.91		2,789.00	8,845.91	68.5
H4.3	6,520.33		2,789.00	9,309.33	70.0
H28.3	6,520.33	5,644.00	20,955.75	33,120.08	36.7
H28.10	6,520.33	5,644.00	23,762.95	35,927.28	33.9
H29.3	11,710.33	5,644.00	18,572.95	35,927.28	48.3
H30.3	21,160.33	5,644.00	9,122.95	35,927.28	74.6
H31.3	24,679.58	5,644.00	6,213.70	36,537.28	83.0

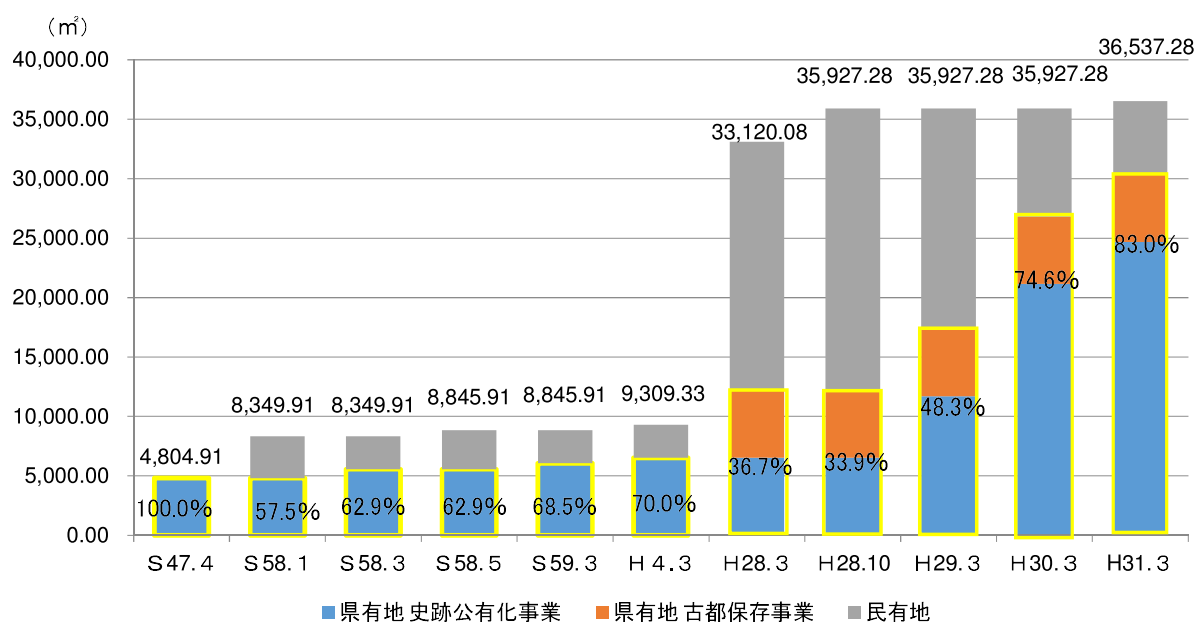


図 2-7 飛鳥宮跡の公有化の経緯



## 第2章 史跡の概要

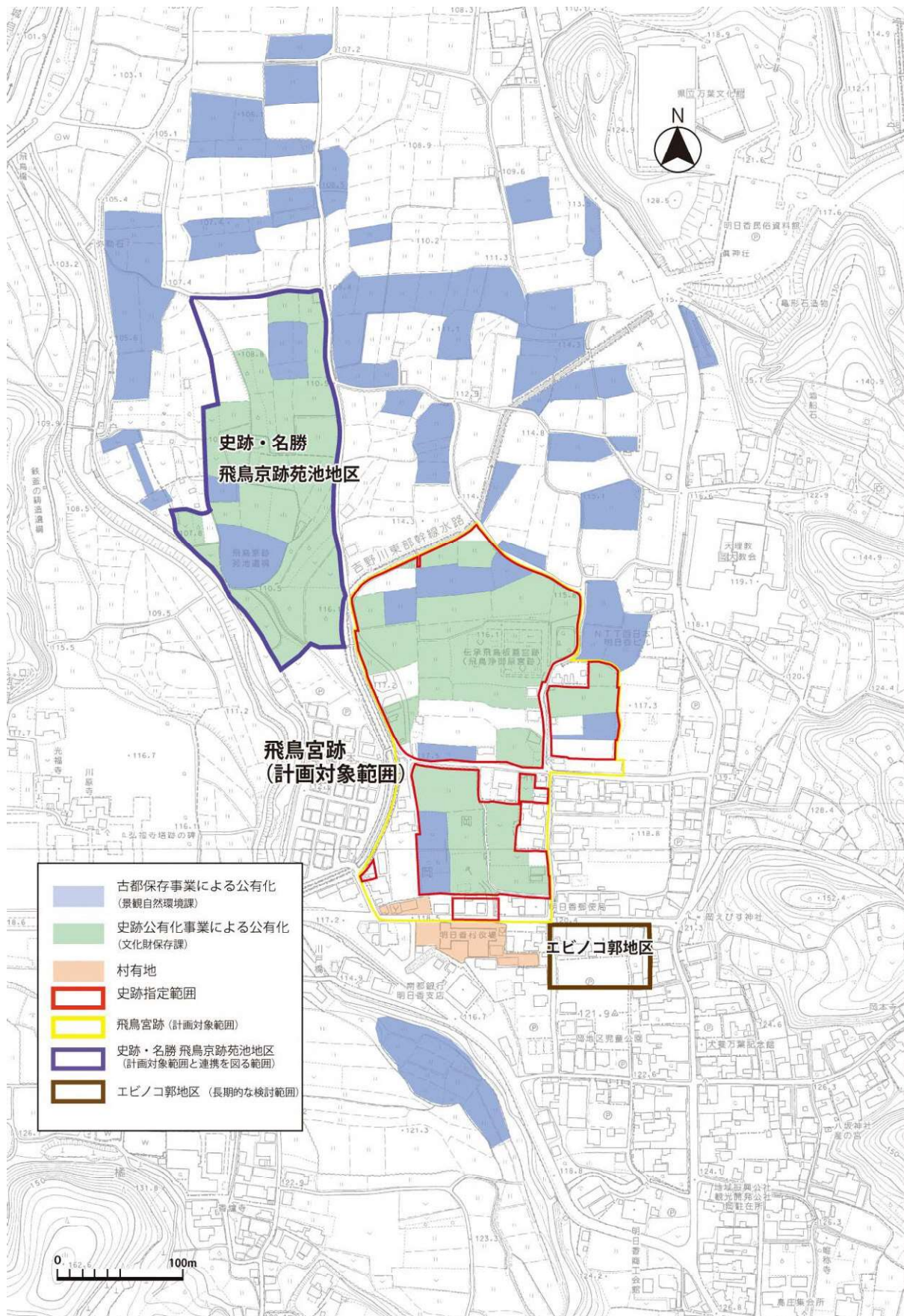


図 2-8 公有化の状況